

テーマ：『2016年度 造形表現活動研究会の活動報告』

造形表現活動研究会

所属 嬉野の園 砂川厚

【はじめに】

筆者が勤務する介護老人保健施設では、造形表現活動を作業療法としてリハビリ活動に取り入れて6年が経過した。「作品には人と人を結びつける力がある。そこでは作品がお互いの会話の中で共通話題となる。さらには作品が施設からとび出せば社会参加へつながる。」をコンセプトに活動に取り組んできた。実際に、この6年間でたくさんの作品が制作され、定期的な作品の展示会では展示会を開催するたびに足を運んでくれる方はもちろん、新たに「この絵いいね」と声をかけてくれる方がいる。そんな時にハッとさせられ、作品の人をつなぐ力に毎回おどろかされる。

しかし今振り返ってみると、「作品のもつ力」については、筆者も当研究会で学び、造形表現活動を継続することで少しずつ気付くことができるようになったと思ひ返した。このことから、作業活動に悩みをもつ作業療法士（以下、OT）からの相談がここ何年でかなり増えてきた。筆者らOTは、作業療法の場でおこなわれている作業活動をどのように捉え、どのように対象者へとつなげていくのか。今一度立ち止まり議論を重ね、作業活動がリハビリにとってさらに必要なポジションのひとつとして見直していければと考える。

【活動内容】

I. 概要

造形表現活動研究会では、毎回テーマをもとにざっくばらんに議論を重ね、はじめて参加する方が気軽に発言できる場になることを心がけている。また、金城光政先生（作業療法士）にレクチャーを依頼して、作業活動で必要な下準備（それこそ、各個人に合わせたそれぞれの下絵の描き方）、そして必要な道具の確認から使い方まで体験することができることから、実践につなげやすいと

好評である。

今年度、2015年4月～2016年3月の期間で実施した研究会の日時、場所、テーマは以下の通り。本研究会は、臨床作業哲学研究会と合同で取り組み、そのほとんどが前半の時間帯を本研究会のテーマで実施し後半は臨床作業哲学研究会が挙げたテーマで実施した。



II. 研究会スケジュール

第1回；4/19, 10:00～16:00／ちむぐくる館

・事例の検討

第2回；5/24, 10:00～17:00／ちむぐくる館

・介護予防の普及講座における造形表現活動の取り組み

・事例の検討

・展示会プロジェクトについて

第3回；6/21, 10:00～17:00／ちむぐくる館

・造形表現活動の展開について

・OTにおける展示会について

・展示会プロジェクトについて

・事例の検討

第4回；7/26, 10:00～17:00／ちむぐくる館

・実践記録の確認

第5回；9/20, 15:00～17:00／ちむぐくる館

・希望のカタチ展6合同企画「展示されている作品をみて、新たな視点を考える」



III. 研修会スケジュール

《造形表現活動研究会×臨床作業哲学研究会》

第1回；2/13, 15:00～17:30／田崎病院OT室

○作業療法臨床で造形表現の活動を展開する。

第2回；3/26, 13:00～17:00／ちむぐくる館

○「チイチイパッパ活動」の検討—視点の変更は可能か—



IV.ワークショップ

第 13 回沖縄県作業療法学会ワークショップ／琉球リハビリテーション学院

【まとめ】

多くのOTが作業活動に悩みをもっている。当研究会に参加して悩みを共有し、実際に作業療法の中で造形表現活動を取り入れた病院・施設は少なからずある。それら病院・施設から造形表現活動をとおして対象者に変化があったという報告がさらに作業療法として必要なポジションであると考えさせられる。前回の研究会報告書で報告した内容をここでも報告したい。

①休日にもOT室のドアを叩くなど制作したいという希望が多くなり毎日の利用者の生活が変わってきた。

②展示会をみた他職種の「〇〇さんあの時間にこの作品を作ったの?」「いつのまにこんなものができたの?」などの反応が大きくそのことがきっかけで作品および制作者に対する見方や関わり方に変化が生じた。

③造形表現活動(あるいはリハビリテーション)に対する上司の関わり方が変わり働きやすくなった。

このように、未だささやかではあるが、各施設で行われている利用者の生活が良くなるための取り組みが研究会を通して変わりはじめてきた。

【来年度に向けて】

今年度の参加者は新しく初めて参加された方が多少目立ち、積極的な意見交換ができた貴重な時間を過ごすことができた。また領域はちがうがやはり作業活動への悩みというカテゴリーでは共通していた。今後も多くのOTRに研究会に参加してもらい、臨床で行われている造形表現活動の意義や利用者の変化などについて、多種多様な視点での議論を行いたい。



図1 ボンドフレーム

高齢者にとって、はっきりと線がみえるため、区切りがわかりやすい。また、展示した時には、観覧されたみなさんから黒光りして光沢もあり見応えがあると好評です。フレームの作製方法は金城光政先生(作業療法士)から直に学びました。

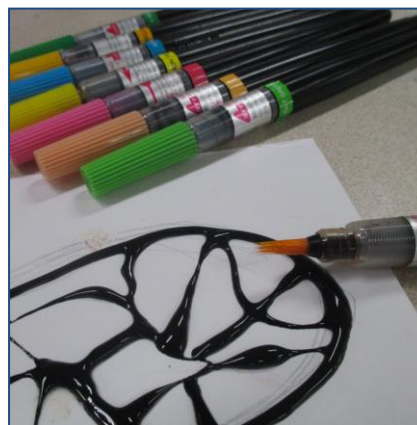


図2 塗る

カラーインクを使用。発色がよく、サーっと塗ることができるため、好んで使用する方が多いです。